



みやじ郷づくりで取材させていただきました。

今回は環境景観部会・自然環境調査班の中村班長にお話をうかがいました。

■環境景観部会ではどのような活動をされていますか？

主に福津市内にあるビオトープや松林の自然環境の調査や、海岸の清掃を行っています。その活動の中で、自然に生息している生物の調査もしており、地域の子もたちと一緒に松林に生息している昆虫や、砂浜の貝を探したりしています。

子どもたちの中には、昆虫のことになるとう目の輝きが違う子もいて、将来の昆虫学者の卵がたくさんいます。そんな子どもたちに会うのが楽しみでもあります。

(◇調査の結果はどうでしたか？)

絶滅したと思われた貝(キサ貝)の発見や、絶滅危惧種である昆虫(34種類)を発見。また、都市部にはいない虫(フン虫や、クロシテムシ)が松林では生息していることがわかっています。

今後も、子どもたちと楽しみながら調査をしていきたいです。

■環境景観部会の活動は地域の人にとってどのような存在となっていますか？

子供たちにとって学び、交流の場となっています。

調査で見つけた昆虫や貝などから生態を知り、そこから自然との関係・つながりを学んでもらい、「何のために調査しているのか」ということを学んで欲しい。

■今後の活動について課題はありますか？

活動をするうえで人手不足が課題になっています。

現在の活動は1人で行っており、子どもたちに教える中で質問が出た時に、全ての質問に回答できないことがある。子どもたち全員に分け隔てなく接したいが、1人で対応するには限界があるため、質問に答えられない子どもがいた時は非常に残念に思い、落ち込んでしまう時もあります。

■今後の活動についての希望などはありますか？

今は人手不足のため、海だけで調査をしていますが、いずれは子どもたちと山・川・海の生態を調査して、「海での調査結果から上流にある川や、付近にある山の生態系まで学ぶことが出来る」という「自然のつながり」を教えたいです。

また、福津の自然は絶滅危惧種が多く生息している珍しい環境なので、その環境を守っていきたくと思っています。



取材や活動に参加した市職員の感想

研修職員の感想

- 取材をした中で、中村さんの研究意欲の高さと、子どもたちが自然の中でたくさん楽しく学んで欲しいという気持ちを強く感じました。子どもたちにとっても非常に学びの多い活動だと思うので、これからも福津の自然で将来の昆虫学者を育てて欲しいです。
- 福津市は自然が豊かで、絶滅危惧種の生物が多く生息していることを学ぶことができる素晴らしい活動だと思いました。将来、子どもたちが大人になった時、自分の子供たちに「福津市にはこんな珍しい生物がいる」と自然が豊かであることを、この活動を通して繋いでいってほしいです。
- “絶滅危惧種を子どもたちが発見することができる”と改めて福津市の生物環境が非常に優れていることに驚きました。それと同時に昆虫調査を通し、子供たちの探求心や観察力を育み、環境保全の大切さを感じられる地域活動に感心しました。
- 自分で集めた昆虫が生態系の理解や変化の発見につなげることができる、子どもたちにとっても非常に貴重な体験だと感じました。また昆虫調査は環境景観部会と子育て支援部会の共働で実施しており、人と人とのつながりの大切さも学べる活動だと思いました。



中村さんの発見したハナヅトコメツブガイ



中村さんの発見したハマベウスバカゲロウアリジゴク（左）とオオウスバカゲロウアリジゴク（右）